

社說

鐵道官有は空論なり

鐵道官有院は昨今一派の實業家并に軍人の間に盛なるのみならず當局者に於ても買上げの方法并に財源の出所等に就て頻りに調查中の由なれども今財政の實際より見て果して實行の望ありや否や自下日本山陽九州甲武の四幹線鐵道が運用する資本金は八千萬餘圓に上る計算なれば若しも營業者に損失を加へずして買收の目的を達せんとする以上は少なくとも一億數十萬圓の資金を要せざるを得ず或は政府の信用を以て外債を募集すれば一舉にして効を奏す可しとの説あれども鐵道買收の爲めに外債を募集するは決して策の得たるものと云ふ可らず其次第如何と云ふに從來の財政計畫に據れば軍備の擴張を始め其他の繼續事業に要する經費の内にて今後公債を以て支辨す可きものは一億一千四百萬圓に達する筈にらば今後數年間に亘く募集の必要あるのみならず昨年來屢々貸金を以て繰替へたるも應募高井に本年四月以来日本銀行の手を経て買入れたる公債の如きも次第に市場に賣出しけんが爲め官有院者の内には新に五分利付の公債を發行し時價を以て鐵道の株式と引換すれば外質に依頼せずして買收の目的を達す可しどの説を唱ふるものあり甚だ簡單なる買收法にして容易に實行の望あるが如くなれども一方より考ふるに今日の如く金融の逼迫したる際に政府が一億圓以上の公債を發行するときは既に公債の價格を算定せらるゝを以て半季決算の場合には純益の一部を以て右の減損高を補充するみどりよりて自から監督を被受けるのは監理の價格を算定せらるゝを以て半季決算の價格を算定せらるゝを以て右の減損高を補充するみどりよりて自から監督を被受けるのは監理の價格を算定せらるゝを以て右の減損高を

新財源

○大演習地観察
兵少佐は大演習地理観察
和歌山地方へ出張せしが
司令部及び中部都督に至
若見第四師團參謀と共に
視察したりと云ふ

立五十年
陛下は即位以來
せらるゝより本年十
即位五十年の祝典を
就き御邊にては皇帝
其式に參列せらるゝ
子を差遣はざるもゐ
れべく皇族等を參列
されども皇族一
ミク 開院宮載仁親
ならんといふ若し同
決せば隨行員は家令
官一人位なるべし

か

阿片特許料
前記にては去る三月
右に關する行政の
規則を改正して
其結果に就ては
容易に何れとも確
き日までの模様に
如し即ち其筋の
量價額に比
較する所によ
る如く
延せざる爲め合
同開設は三萬六
月中の分に比す
三百二十七匁
の増加
受賣人より吸食
月中の數量は三
頃は三十萬五千
以上に及ぶ

改正の結果
阿片吸食者を撫慰振作を圖らんとして吸食特許料を立て実施後日尙ほ騒音するを得ざりては頗る好成績調査に據れば工場内に五月中實渡せたる計中には同縣に前月即ち四月十九日すれば孰も左南縣のみは三日百二十三人の増人へ實渡せたる千五百四十六人千五百八十八圓に至り二百五十八圓にて二百五十八圓にて一萬九

六圓に駄貴せしめたるが爲めに本年上半期の
決算に當て銀行會社に便宜を與へたるは世間
の明に認むる所にして政府が今日に至るまで
種々の遺縁り算段と運らして其繼續を謀る所
以なるに此際鐵道官有の爲めに大に公債の債
格を下落せしめんか當に從來の苦心を無にする
のみならず一時的に驕られて實途の切迫
したる資金をも流用して大に公債を買入れ債
格の維持を謀るなき不始末を見るやも知る
可らず甚だ掛念に堪へざる所なり財政の實際
より見て官有論に實行の望なきふと右の如く
なりとすれば假令み驗者が如何なる理由を以
て官有の必要を唱ふるも一片の空論と云ふの
外なかる可し財政の當局者が之に就て如何な
る意見あるやは我輩の知る所なれども眞
に財政整理の目的を達せんとならば斯る空論
を排斥す可きは當然の事にして若しも其實行
に賛成するふともあらんには口と紙の急を
唱へながら實際に之を妨ぐ
輩の斷じて許さる所なり
ハ可し我

○臺灣文官の養成は
は初め特別任用令の下にて
爲め種々の弊害を作り難
能はざるより此程特別の
外は内地と同じく一切文
改めたるを以て自ら臺灣
成するの必要を生じ來り
臣の時より兼て計畫し居
を新設する事に決定す
議會に提出せらるる等
民行政、殖民經濟、
英語、清國法律、帝國法律
科を定め生徒の定員を五
箇年五十箇年づゝを給與し
め卒業後五箇年間は臺灣
汽車にて横濱に赴き船舶
務を有するものなりと云
○林遞信大臣　は昨

計量　臺灣の文官
採用し來りしもの
底過富の官吏を得る
技能を要する官職の
官任用令に據る事と
國の爲め特に文官を養
なれば芳川前内務大
臣の臺灣語傳習所
は次期の
官所は殖
其他漢文算術等を講
十名ども生徒には一
して二箇年に卒業せし
官吏を奉職するの義
午前九時新橋發の
檢所等を巡視した
誕辰

○ 云中を御坐寄の能登守を破會於難國の下

委員は銳意此事に從事し居る由なり
朝日紡績會社總會の騒擾 大阪の右側
向倉社にては取締役三名、監査役二名の補欠選舉を行ふ爲め去る廿九日大阪南端明月樓にて於て臨時總會を開き西田久彌氏座長となり開會を宣言するや株主長田某は本議に先ち調査委員を設けて會社内部の調査を爲さんと述べしに座長は議題外なれば差延へらるべしと注急したり然るに長田説にも賛成ありて座長のをも亂打し、是より双方入亂れて非常事態となり負傷者へ生じたるより所轄警察署よりは巡査數名出張して夫々取調べたれの争闘となり負傷者へ生じたるより所轄警察署よりは巡査數名出張して夫々取調べたれ逃席せし爲め本議に入らず流會となりたる出来に角倉社の總會には稀有の騒擾なりしこそ言者の何人たるやも知れず止

十八匁、價
增加、
の増加は黒
し悉く全唱
なりしと云
さるべく殊
主るべく終
十萬人とよ
るならんと
判事免官
免官
免本官
郡長更任